

## 第2回球磨川堤防調査委員会

1. 日 時：令和2年8月7日（金）15:00～17:00

2. 出席者

委員長

秋山 壽一郎 九州工業大学名誉教授

委員長代理

安福 規之 九州大学大学院工学研究院社会基盤部門教授

委員

上久保 祐志 熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科准教授

佐々木 哲也 国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ  
土質・振動チーム 上席研究員

福島 雅紀 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部河川研究室室長

（敬称略 五十音順）

3. 議事概要

○第1回委員会（現地調査）での意見を踏まえ、左岸 55.0 付近、右岸 56.4 付近の決壊 2 箇所の調査・解析の結果、決壊メカニズムを確認し、浸水状況の再現解析や被災要因の推定について意見を伺った。また、今回の検討結果を踏まえて、本委員会での意見以外についても、委員より調査・分析等に関する意見を事務局に連絡することとなった。

○浸水状況の再現解析について

- ・減水期の解析が重要となってくるが、現在の解析方法で再現性が低ければ解析方法を含め再検討すること。
- ・具体的な解析条件等を提示すること。
- ・水位計等の記録が残っている箇所で検証を行うこと。
- ・解析結果を検証するために、痕跡水位等の記録を更に整理すること。

○被災要因の推定について

- ・空洞化対策工事について、置換土の性質・状態や施工状況等を確認すること。
- ・過去の空洞化調査として、サウンディングにより樋管周りの緩み領域が示されているため、空洞状況についても確認すること。
- ・決壊箇所以外の堤防法面、土砂堆積、舗装剥離の被災状況なども被災要因を推定する上で、重要な情報となるため整理すること。
- ・八久保排水樋管下流の川裏部が侵食された原因を確認すること。

○その他

- ・護岸や舗装、側溝等の被災状況が把握できるよう図面として記録を残すこと。
- ・堤防越流時の状況画像を報告書に掲載すること。

【委員会の状況】

